

平成 24 年度 第 2 四半期（上半期）報告 説明資料

朝日生命保険相互会社

当社は、平成 24 年 4 月から中期経営計画「Action (3 カ年計画)」をスタートし、経営ビジョン「お客様一人ひとりの『生きる』を支える」の実現に向けて、「女性・シニアを中心とした『第三分野マーケット』に強い会社」、「お客様の多様なニーズに『最適なチャネル』でお応えする会社」、「既成概念を突破する活力に溢れた『現場力』の強い会社」の 3 つのテーマに取り組んでおります。

本計画の取り組みの一環として、4 月には、公的介護保険制度に支払要件を完全に連動させた新介護保険を発売し、好評をいただいております。

今後も引き続き、本計画の営業戦略等のアクションプランを展開することにより、第三分野を中心とした保障性商品の保有契約（年換算保険料）反転を通じた安定したフロー収益の確保と、これによる自己資本の拡充により、更なる財務体質の強化に努めてまいります。

1. 業績の状況

新契約は前年同期比 94.8%となりました。消滅契約は同 95.0%と改善し、その差額（新契約－消滅契約）は 30 億円の純増加となりました。

（1）新契約

平成 24 年度上半期の新契約年換算保険料（新契約＋転換純増加）は、前年同期比 94.8%となりました。そのうち第三分野部分については、前年同期比 112.2%となりました。

個人保険・個人年金保険の新契約（新契約＋転換純増加）の状況

区分	平成 24 年度上半期		平成 23 年度上半期
		前年同期比	
新契約年換算保険料 （新契約＋転換純増加）	164 億円	94.8%	173 億円
うち新契約（新規契約）	139 億円	102.4%	136 億円
うち転換純増加	24 億円	66.5%	36 億円
うち第三分野部分	66 億円	112.2%	59 億円

(2) 消滅契約

平成 24 年度上半期の消滅契約年換算保険料（死亡・満期等を除く）は、前年同期比 95.0%となりました。

個人保険・個人年金保険の消滅契約の状況

区分	平成 24 年度上半期		平成 23 年度上半期
		前年同期比	
消滅契約年換算保険料 （解約＋失効＋減額－復活）	133 億円	95.0%	140 億円
うち解約・失効契約	119 億円	96.2%	123 億円
消滅率（解約＋失効＋減額－復活）	2.33%	△0.10%	2.43%

(3) ご契約の継続率の状況

ご契約の 7 月目・13 月目・25 月目継続率は、いずれも改善し、高水準を維持しています。

ご契約の継続率の状況

区分	平成 24 年度上半期		平成 23 年度上半期
		対前年同期増減	
7 月目継続率	95.8%	+0.4%	95.4%
13 月目継続率	91.9%	+0.3%	91.6%
25 月目継続率	84.7%	+0.5%	84.2%

(4) 差額（新契約－消滅契約）

平成 24 年度上半期は、新契約年換算保険料（新契約＋転換純増加）と消滅契約年換算保険料（死亡・満期等を除く）の差額が 30 億円の純増加となりました。

区分	平成 24 年度上半期		平成 23 年度上半期
		対前年同期増減	
新契約年換算保険料 －消滅契約年換算保険料	30 億円	△1 億円	32 億円

(5) 保有契約

保有契約は、前年度末比 99.4%となりました。そのうち第三分野部分は、前年度末比 100.4%となりました。

なお、第三分野部分の保有契約全体に占める割合は、前年度末に比べ、0.3ポイント上昇し、28.9%となりました。

個人保険・個人年金保険の保有契約の状況

区分	平成 24 年度上半期末		平成 23 年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	5,689 億円	99.4%	5,725 億円
うち第三分野部分	1,644 億円	100.4%	1,638 億円
構成比	28.9%	+0.3%	28.6%

(注) 1. 全て年換算保険料ベースで記載しています。

新契約、消滅契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料については下記のとおりです。

- ・年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
 - ・「第三分野部分」とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。
2. 「消滅契約」（死亡・満期等を除く）とは、解約・失効、減額、復活（失効から控除）を集計しています。本文中の消滅契約は全て同じ定義として使用しています。
3. 消滅率は対年度始保有保険料で算出しています。その前年同期比欄は、対前年同期増減を表示しています。
4. 7月目・13月目・25月目継続率は平成24年4月から平成24年9月に判明した継続率の累計値を表示しています。（7月目継続率の対象は平成23年7月から平成23年12月に募集した契約、13月目継続率の対象は平成23年1月から平成23年6月に募集した契約、25月目継続率の対象は平成22年1月から平成22年6月に募集した契約です。）
5. 保有契約年換算保険料の第三分野部分構成比の前年度末比欄は、対前年度末増減を表示しています。

2. 収益の状況

基礎利益は108億円、経常損失は144億円、中間純剰余は25億円となりました。

(1) 基礎利益

基礎利益は108億円となりました。内訳は以下のとおりです。

① 費差損益

費差損益は、事業費の削減に努めた結果、前年同期に比べ5億円増加しました。

② 危険差損益

危険差損益は、保有契約の減少により、前年同期に比べ18億円減少しました。

③ 逆ざや額

逆ざや額は、利息および配当金等収入の減少により、前年同期に比べ13億円悪化しました。

基礎利益の状況

区分	平成24年度上半期		平成23年度上半期
		対前年同期増減	
基礎利益	108億円	△26億円	135億円
費差損益	100億円	+5億円	94億円
危険差損益	457億円	△18億円	475億円
逆ざや額	△448億円	△13億円	△435億円

(2) 経常利益・中間純剰余

有価証券評価損の計上等により、144億円の経常損失となりましたが、価格変動準備金の一部を取り崩した結果、中間純剰余は25億円となりました。

経常利益・中間純剰余の状況

区分	平成24年度上半期		平成23年度上半期
		対前年同期増減	
経常利益（△経常損失）	△144億円	△410億円	265億円
中間純剰余	25億円	△193億円	219億円

3. 財務の状況

有価証券全体では、414 億円の含み益となりました。

ソルベンシー・マージン比率は 401.8%、実質純資産額は 3,657 億円となりました。

(1) 有価証券の含み損益

有価証券全体では、414 億円の含み益となりました。国内株式は、325 億円の含み損、国内債券は 903 億円の含み益となりました。

なお、市場環境の先行き不透明感が高まるなか、株式等のリスク性資産の残高削減を実行しており、更なる市況悪化への耐久力は向上しております。

有価証券の含み損益の状況【一般勘定】(有価証券のうち時価のあるもの)

区分	平成 24 年度上半期末		平成 23 年度末
		対前年度末増減	
有価証券全体	414 億円	+358 億円	56 億円
うち国内株式	△325 億円	△ 8 億円	△316 億円
うち国内債券	903 億円	+348 億円	554 億円
うち外国証券	△175 億円	+ 29 億円	△204 億円
うちその他の証券	△ 32 億円	△ 20 億円	△ 11 億円

(2) ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額

ソルベンシー・マージン比率は 401.8%、実質純資産額は 3,657 億円となりました。

ソルベンシー・マージン比率の状況

区分	平成 24 年度上半期末		平成 23 年度末
		対前年度末増減	
ソルベンシー・マージン比率	401.8%	△24.8%	426.6%

実質純資産額の状況

区分	平成 24 年度上半期末		平成 23 年度末
		対前年度末増減	
実質純資産額	3,657 億円	+123 億円	3,534 億円

以 上